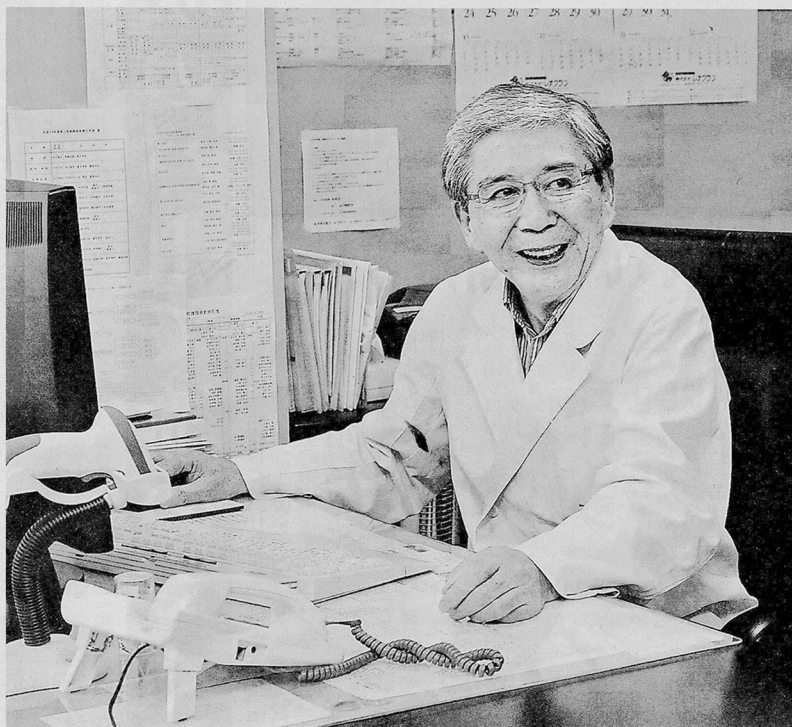


敬老の日特集

きょう18日は高齢者を敬い長寿を祝う国民の祝日「敬老の日」。
2016年10月時点の県内の65歳以上の人口は約57万7000人で、県民の28.6%を占めている。県老人保健施設協会理事で、郡上市白鳥町で介護老人保健施設（老健）「ケアポート白鳳」を営み、社会医療法人白鳳会の理事長を務める鷺見靖彦医師（74）に、老健の役割や介護の未来について聞いた。

県老人保健施設協会理事 鷺見靖彦医師に聞く

医療と介護が「連携」



「体と心を動かし続けることが認知症の予防につながる」と語る県老人保健施設協会の鷺見靖彦理事。郡上市白鳥町、鷺見病院

老健施設、急病にも対応

「老健はどんな役割を持つ施設ですか。特別養護老人ホーム（特養）やグループホームとの違いは何ですか。」

老健は在宅介護と病院の間の役割を果たす「中間施設」です。認知症患者らが共同生活するグループホームや、終身入所を視野に入れた特養とは異なります。介護を必要とする高齢者を回復させ自宅に帰すことを目的としています。医師の常駐が義務づけられているほか、看護師、リハビリを担当する作業療法士や理学療法士、日常生活を介護するケアマネジャーと介護福祉士などの専門職が勤務しています。医師の管理の下で歩行訓練などのリハビリを行っており、急病にも対応できます。

◆ ◆ ◆
近年の入所者層に変化はありませんか。また、ケアポート白鳳の特徴的な取り組みを教えてください。

（ケアポート白鳳のある）郡上市は高齢化率が33%を超えています。近年は、入所者の高齢化とともに認知症患者も増えてきました。老健の理念に反して入所が長期化してしまいうケースも多くなっています。計算問題や園芸、縫い物などに取り組む

む認知症リハビリを導入しました。頭と体を動かすことで、認知症の進行を遅らせようとしています。

◆ ◆ ◆
介護職員の人材不足が大きな課題となっています。

職員の働きやすい環境づくりが大切だと考えています。ケアポート白鳳では、職員のための託児所を設けました。本年度中に24時間保育に対応する予定です。長期的な対策としては、フィリピン人の介護福祉候補生を延べ12人受け入れてきました。真面目で勉強熱心なので、入所者からの評判も良いです。

◆ ◆ ◆
新しい技術の導入についてはどのように考えていますか。

認知症患者の話し相手になるロボットがいれば、入浴などの力仕事に多くの人材を当てることができそうです。ただ、高齢者はともてデリケートです。力仕事を代替する介護支援スーツなどは、安全性を高めるのが先決だと考えています。

23面に続く

敬老の日特集

高齢者の回復を目指す

22面から続く

— 高山市の介護老人保健施設で死者が相次ぎ、施設の安全に厳しい目が向けられています。

— 高山市の件は真相は分かっています。せんが、念のため、高齢者虐待の防止について職員に文書で注意を促しました。入所者は血栓予防のために血の通いを良くする薬を服用しているケースも多く、小さなミスであざや傷ができてしまいます。職員同士でコミュニケーションを密接に取り合い、異常があればすぐに報告する体制が必要です。

— 虐待防止について他に注意すべきことはありますか。

— 経済的・精神的虐待といった「見えない虐待」にも気を付けなくてはなりません。「命令口調を避ける」「赤ちゃんをあやすような言葉使い

認知症の予防へ 心と体動かして



作業療法士に手助けされながら歩行訓練する入所者＝郡上市白鳥町、介護老人保健施設「ケアポート白鳳」

をしない」など、入所者のプライドを傷つけないよう常に気を配っています。

— 認知症を予防するために良い習慣はありますか。
心と体を常に動かし続けることで

— 楽しみながら家事をしたり、幅広い世代と話すことが脳を刺激し、認知症の予防につながります。

— 近親者が認知症になった時、家族はどんな対応をするのが望ましいでしょうか。



発症する前の生活習慣をできるだけ維持することです。むやみに叱ったりせず、気長に接することも大切です。

筋力を維持するため
お手玉を使ったリハビリに取り組みたい
ケア利用者＝同